

うちうみまちづくり連合 “Yomoshi連内海” 主催事業

須ノ川公園まつり

右／手作りのお化け屋敷は、毎年行列ができるほど大人気
下／平成27年に20年ぶりに復活した地引網。みんなで力を合わせて大物を狙います



劇団風の子公演



上／劇団風の子の公演は、毎年子どもたちに大人気。子どもたちは舞台上で繰り広げられる物語を、目を輝かせながら見つめました
左／劇団風の子と共に子どもたちに夢を届けているYomoshi連のメンバー。後列右から2番目が河野満会長

愛は南から — “Yomoshi 連内海”

うちうみまちづくり連合

内海地域で「ずっと住み続けたいと思える地域をめざして」活動をする団体があります。平成27年に既存のまちづくり団体を再編して誕生した“Yomoshi 連内海”（河野満会長）です。

「Yomoshi 連」は「よもしれん」、予期せざる、突拍子もない、という意味の地元の方言。内海地域の公民館や学校、消防など各種団体とゆるやかなネットワークでつながって「よもしれん（突拍子もない）」夢を描き、実現を目指しています。メンバーは、30代から70代まで約40人。誰でも自由に参加でき、参加者は楽しみながら地域の活性化に知恵を絞っています。

5月17、18日には、“Yomoshi 連内海”が主催する劇団風の子の公演が平城小学校と一本松小学校で行われました。この事業は、元々Yomoshi 連へ再編される前の団体が実施していたものですが、舞台芸術の楽しさを子どもたちに伝えたいとの思いからYomoshi 連が引き継いで

続けています。メンバーは2日間にわたって、劇団員と共に舞台設営に汗をかき、子どもたちに夢を届けました。

Yomoshi 連が主催する最大の事業が平成27年に10年ぶりに復活した「須ノ川公園まつり」です。当時は、公民館を中心に企画段階から地域住民（後のYomoshi 連メンバー）が意見を出し合い、協力し合って、10年ぶりのまつりを成功に導きました。以来、「須ノ川公園まつり」は毎年2,500人以上が訪れる内海地域の夏の一大イベントになっています。今年の「須ノ川公園まつり」は7月29日。河野会長は「花火はもちろん、毎年人気の地引網やお化け屋敷などもパワーアップしている。ぜひ会場にきて楽しんでもらいたい」と呼びかけています。



Yomoshi 連内海の
河野満会長